

東洋医学(選択)

研修科	東洋医学(選択)	
責任者	教授	武田 卓
指導医数	1	名
研修期間	4	週間 ~ 4 週間
受入可能人数	1	名
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医師としての倫理観・責任感・使命感をもって行動できる。 2. 東洋医学的な診察方法を応用しプライマリ・ケアを实践できる基本的診療能力(知識、技能、態度)を身につける。 3. 医療における安全管理の方策を理解し、患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行できる。 4. 医療チームの構成員としての医師の役割を理解し、鍼灸師や薬剤師といった他のメンバーと協調して問題解決にあたることができる。 5. 患者を全人的に理解し、患者・患者家族と良好な人間関係を確立し、予防を含む包括的なケアを提供できる。 6. 医師としての社会的使命を自覚し、有限である医療資源を公平に配分し、効率的に使用することができる。 7. 世界の医学研究の動向を理解し、最新の医学知識を修得するための英語能力を獲得し、国際保健の向上に貢献できる。 8. 常に自らを省みて医学の研鑽と学習に励み、自己の向上に努める。 9. 臨床活動の改善を目指し、見出した問題点の意義を検証し、研究課題を設定できる。 	
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋医学的な鑑別疾患を理解し、漢方薬と西洋薬の使い分け・併用の適否を判断する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 患者の症状、他科受診歴をチェックし、十分な鑑別診断が行われているか、必要な検査がないかを確認する。 ② 西洋薬と漢方薬の併用禁忌薬を述べることができる。 ③ 漢方薬ならではの副作用を述べることができる。 2. 漢方治療の基本的な診断方法を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 問診を通じて、基本的な漢方所見をとる。 ② 典型的な腹診・舌診所見を学ぶ。 3. 汎用処方法の運用を修得する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 婦人科領域(更年期等)での汎用処方を学ぶ。 ② 急性期疾患での汎用処方を学ぶ。 ③ がん患者での汎用処方を学ぶ。 4. 漢方治療のEBMを学習する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 最新の海外文献により、漢方治療を含む代替医療全般の作用メカニズム・RCTによる治療効果等に関して学習する。 5. 鍼灸治療の概要を理解する。 	

<p>方略 (LS)</p>	<p>1. 外来 指導医の診療を見学し、東洋医学的診察方法を学習する。初診患者の西洋医学的な予診を行い、指導医の東洋医学的診療を見学することにより、西洋医学・東洋医学の相違を学習する。生薬専門薬剤師による生薬調剤を見学し、主な生薬の特性を理解する。鍼灸治療を見学し、治療の実験を経験する。</p> <p>2. カンファレンス等 症例検討会、抄読会に参加し知識を深める。抄読会では、漢方に関する最新の英文論文1編を担当し、指導医とともに漢方治療における科学的研究を学習する。機会があれば、当科が主催する院内セミナーや漢方に関する研究会(Osaka Science based Kampo 研究会)に参加し、日本における漢方研究に関する最新の情報を学ぶ。</p>
<p>評価 (EV)</p>	<p>研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価し、評価票は研修管理委員会で保管する。医師以外の医療職には、看護師を含むことが望ましい。</p> <p>上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形成的評価(フィードバック)を行う。</p> <p>2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。</p> <p>研修医評価票</p> <p>Ⅰ. 「A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)」に関する評価</p> <p>A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与</p> <p>A-2. 利他的な態度</p> <p>A-3. 人間性の尊重</p> <p>A-4. 自らを高める姿勢</p> <p>Ⅱ. 「B. 資質・能力」に関する評価</p> <p>B-1. 医学・医療における倫理性</p> <p>B-2. 医学知識と問題対応能力</p> <p>B-3. 診療技能と患者ケア</p> <p>B-4. コミュニケーション能力</p> <p>B-5. チーム医療の実践</p> <p>B-6. 医療の質と安全の管理</p> <p>B-7. 社会における医療の実践</p> <p>B-8. 科学的探究</p> <p>B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢</p> <p>Ⅲ. 「C. 基本的診療業務」に関する評価</p> <p>C-1. 一般外来診療(当科では、外来診療のみの研修となる)</p>
<p>責任者からの一言</p>	<p>当科は、西日本で唯一の医学部併設の東洋医学の臨床・基礎研究を実践する専門機関である。伝統的な生薬による煎じ薬を用いた治療を行う一方で、エキス剤を用いた二重盲検比較試験等の科学的な治療効果検証の臨床研究でも中心的な役割を担っており、現代における漢方治療の様々な側面を理解できると思う。また、臨床各科の隙間をうめるマトリックスとしての漢方治療の有益性を体感できると思う。ガイドラインや教科書で解決できない問題に直面した際には、漢方治療の応用を試みて欲しい。</p>